

国際舞台で日本の リーダーが勝てない理由

圧倒的な人生経験不足

昨年のアメリカ大統領選挙は、アメリカ国民ではない、選挙権を有さない我々日本国民も大いに注目して見ていました。このようにして一国のトップが選ばれるのか、こういう人物が選ばれるのかと、関係がないにもかかわらず、妙に納得をしていた人も多いと思います。

オバマ大統領は就任演説で、アメリカという国の、国家の偉大さを語り、いまは危機に瀕しているものの、それを政府と国民の手で再生させるとスピーチしていました。これを聞いた時に、多くのアメリカ国民は「その通りだ、経済を立て直すためにも本気で取り組まなくてはいけない」という気持ちにさせられたと思います。数カ月経つてみて、政策そのものは、なかなかすべて上手くい

くものではないですから、様々な問題が出てきてはいます。しかしながら、このリーダーを信じてついていってみたいと思わせる納得感というものを感じさせる演説だったように思います。

ふり返って日本のリーダーはどうか。自民党でも民主党でも、どちらが選ばれるにせよ、国民がついていきたいという気持ちになれるようなリーダーとは思えません。

麻生首相や鳩山代表が悪いわけではなく、いまの日本の土壌が、国家を引っ張るリーダーが生まれにくいものになってしまっているのだと思います。
アメリカにはワ

ン・ドロップ・ルールという差別的扱いがあり、白人以外の血が一滴でも入っていれば人間扱いされないような社会が根強く残っています。オバマ大統領は黒人と白人の混血ですから、ここまで来る過程で、いろいろな形で虐げにあつてきたことは容易に想像できるわけです。それでも彼はハーバード・ロー・スクールで優秀な能力を示し、弁護士時代はシ

カゴの貧困層救済の人権派弁護士として戦っていたわけですから、生命をかけて仕事に取り組んできた経験があります。

つまり、インテリ層から見ても、貧困層から見ても、彼の言動には納得感があるわけです。現政権に限らず、日本のリーダーは、極貧から苦勞しているわけでもなければ、スーパーエリートでもない状況で、どちらの層から見ても納得感を与えられるような人材は見当たりません。

何が足りないのか。圧倒的な人生の経験不足だと言えます。いまの世の中、極貧のなかから国会議員になつていくようなルートはなく、戦場で指揮官として命をかけて戦つたような人材もいません。エリートとして徹底的な教育を受け、頭はピカイチ、ケンカをさせても強いといった候補者群もない。せいぜい、二代目三代目で家系だけはいいといったレベルです。

ヘッドハンターとして、いろいろな企業のリーダー、あるいはリーダー候補をスカウトする時には、経験や、どのような逆境を越えてきたかという点を、比較対象して選びま

「極限状態を生き抜いた人間は強い」と古田氏。





「安全・安心を守ることが第一」

す。それと同じように、どの国も、国のリーダーを選ぶ時は、比較対象として国際的にも耐えうる人間を選ぶよう努力するものです。

いまの日本のリーダー候補のなかに、この点ではオバマに負けないと言える人がいるか。他国ではブーチンにしても胡錦濤にしても、何かしら他の国のリーダーと比較して負けないものを持っていると感じます。

国家のリーダーたちというのは、人間として極限状態を戦ってきた経験のある人材の集団です。アメリカ大統領選で敗れたジョン・マケインでさえ、北ベトナムで五年間捕虜として生き抜いた経験を持っていきます。決して戦争を経験しろと言っているのではなく、仕事でも生活でも、何ごとか命を賭して戦った経験のなかでリーダーシップを発揮した人間の強さには、なかなか勝てるものではないということです。

よく大企業の社長や役員をせせら

笑う時に、「誰が社長になっても一緒だ」という言い方をしますが、事実、日本社会にはそういう部分もあると思います。裏を返せば、人間としての極限状態をくぐり抜けてきた

リーダー候補が、この日本社会には圧倒的に足りない。だから六カ国協議で北朝鮮から、日本は入らなくてもいいと言われてしまいうくらいバカにされるわけです。

日常でも、経験のない人の話なんて歯牙にもかけられません。ノーベル賞クラスというくらい頭がいいとか、極貧のなかから這い上がってくる強さがあるとか、戦争の指揮官として命のやり取りを経験したことがあるような人間と一対一で勝負をしなくてはいけないのが、国と国の交渉です。

グローバルなステージでは、何らかの経験を経ている人に参加資格があるとは思えません。中曽根元首相くらいまでは、戦争や戦後の復興を経験し、日本にも他の諸国のリーダーと対等に話ができる人材群があったように思います。これは英語ができる、できないの問題ではありません。人間として対峙できるかどうかです。

かです。

この国の命運を預けられるようなリーダーが出てくるかどうかで言えば、あと数十年間は出てこないでしょう。いまの日本にはリーダーが生まれる素地がありません。

いまよりも、もう一段、日本がダメになってからだと思います。悲しいけれども、日本がもっと惨めな経験をして、その惨めさを「なにくそ!」と跳ね返すような、そういう人たちの層が作られていき、その中からリーダーが出てくるような形であれば難しいと思います。

バラマキは二次

最近ではマニフェストだとか、説明責任という言葉が流行っています。が、我われ一般市民にとって、そんなことは実は重要でない。国家のリーダーには、安全・安心な暮らしを守ることを提供してもらえればよい。

各担当大臣が言わなければならぬようなことをマニフェストにしても意味がないとは言いませんが、もっと大切なことがあるはず。日本という国が、世界に対してどう貢献し、尊敬されるか。

現実問題として、日本はこの六〇年間、アメリカの植民地のようにやってきたわけですから、この植民地から独立するのか、それとも新しく

強くなってきた中国になびくのか。この地球の上で安全・安心に生きる事が第一で、個別のバラマキは二次でいい話です。

一番よいのは、自分たちの国は自分たちで守ることですが、この六〇年間、やったことがありません。どこかの国に守ってもらおうしかないという悲しい現実をわが国は背負っているのですから、そのうえでリーダーには日本が何を世界に貢献するかを明確に言ってもらいたい。

戦後、日本は戦争に巻き込まれることはありませんでしたが、現実には世界中の至るところで戦いは起き、多くの人々が生死の極限状態に直面しています。日本はいままでアメリカの傘の下でよく無事だったと思います。日本が経済大国だったからこそ、守ってくれたのでしようが、日本の経済力が弱まり、アメリカが弱り、北朝鮮の脅威が増しているなかで、安全・安心が揺らいできていくのは事実です。

日本では、国を守るという経験のない人たちが国を運営しているわけですから、厳しい情勢になることは間違いありません。かつて日本は、世界に誇れるリーダーを輩出して国を救ってきた歴史があるわけですから、危機的状況のなかで、本当のリーダーがきつと現れることを信じたいと思います。

B